



今年のみどり祭

部長代理 勝木 茂

朝夕ひときわ冷えこむようになってきました。遅めに帰宅する南東の夜空には、オリオン座や冬の冬の大三角形がはっきりと見えるようになってきました。季節は、確実に冬に向かっていくようです。

この季節オリオン座を見ると、わたしは自分が教員一年目で5年生の学級担任だった時のことを思い出します。(もう35年ほど前のことです)理科の教材研究のため、先輩の先生と一緒に夜、校舎の屋上で何度か星の観察を行いました。寒かったのですが、「ほんの少しでもよい授業ができる教師になりたい!」そんな思いだったのかも知れません。あの時に見たオリオン座のベテルギウスもおおいぬ座のシリウスもこいぬ座のプロキオンも(冬の大三角形)当たり前ですが、今も全く変わっていません。子どもたちに「少しでもよい授業を!」改めてそんな思いにさせてくれるこの季節のオリオン座です。

さて、今年も11月10日(土)・11日(日)「羽ばたけ!みんなの個性 輝け!みんなの笑顔」をテーマに第24回「みどり祭」を幼稚部・初等部合同で開催いたしました。保護者、卒業生をはじめとする多くのみなさまにご来校いただき誠にありがとうございました。(来校者数[2日間合計]=2,086名)



「みどり祭」は、初等部の子どもたちにとって、日常の授業を中心とした学校生活における様々な学習の成果を発表する場となっています。同時に、学年を越え互いのよさや努力

の過程を認め合う場でもあります。「はじめは難しいと思っていたけれども、努力を続けたら自分なりに満足する絵を描くことができた。」「算数で勉強したコンパスを使うと、こんな綺麗な模様を描くことができるんだ。」「やっぱり6年生の作品はすごいな、わたしもあんな作品が作れるようになりたいな。」今年も、「みどり祭」を通して、子どもたちは様々な思いをもったことと思います。



初等部が大切にしていることの一つに「どの教科の勉強にもバランスよく一生懸命に取り組む」があります。これは、例えば図工の時間に上手く作品ができたという自信は、算数の時間にも生かされるということです。(学習の転移という理論もあるようです)また、不得意であると思っていることにも積極的に取り組み、それを乗り越えるという体験は、子どもたちのこれからの人生に大きな意味をもつと考えるからです。

「みどり祭」が終わった今、子どもたち一人一人が、さらなる目標に向かってくれれば嬉しいかぎりです。

二学期も残り少なくなってきました。寒い日も増えてきています。子どもたちには朝礼等でも繰り返し話していますが、風邪やインフルエンザの予防のために「手洗い」「うがい」「せきエチケット」を忘れないようにしたいものです。

12月8日(土)には、松本講堂で学習発表会を行います。残り約10日間、子どもたち一人ひとりの成長を親子で確認し振り返る期間としていただければ幸いです。